

令和7年度 第3回生坂村ゼロカーボン推進プロジェクト会議録

日 時：令和7年6月25日（水）13時30分

場 所：村民会館講堂

村長より

- ・先月末の外部評価委員会にて概ね良好なご意見をいただいた中で、村民の皆さんへの啓発についてのご意見があり、今月の龍と子に反映をした。また、先月より役場、道の駅など公共施設に中部電力から(株)いくさかてらすへのスイッチングを進めている。今後は民間事業所もスイッチングをして、(株)いくさかてらすの方へ電気料が支払われるよう徐々になっていく予定。(株)いくさかてらすは電気小売りにより収入を得て健全経営をしていかなければならないので、引き続き力を入れていきたいと思っている。
- ・上生坂区マイクログリッド事業について、いよいよ7月から本格的に県道の工事が始まり年度内に工事を完了するため、JV でしっかりと工事を進めていただきたい。先月より村政懇談会を開催しており、小立野区を明日残すのみで9区が終了した。それぞれ脱炭素先行地域づくり事業へのご意見、ご要望もあったが、今までの説明会に比べると批判的なご意見は少なく、今後どのように活用していけば良いかというようなご意見が多くあった。
- ・V2H (EV 充放電器) について、災害時での活用の他に、日頃普通に活用できそうな方法やご提案を、皆様方からあればお出しいただきたいと考えている。その他にも色々と協議事項があるが、今日も皆様の忌憚のないご意見をお願いしたい。

【協議事項】

○令和7年度第1回外部評価委員会について

- ・各評価委員からいただいた意見について次のように説明。
- ・省エネ機器導入補助の実績36件について、村内約700世帯のうちからこれだけ手が挙がったのは素晴らしいという印象。一方で、省エネ機器・木質ストーブ・断熱改修がどのくらいのお宅に導入されたという世帯数も示されると良い。村民が導入補助という形でどれだけ関わったか、地区ごとに色塗りしてみ

るなど、事業の恩恵がどう浸透しているか実感しやすい方法を考えてみると良い。(茅野先生)

- ・これだけの大きな脱炭素事業が進捗していくと、村民にとってどういう利点があってどのように還元されるのかをもっとアピールしていくことが望ましい。(姫野氏)
- ・一般家庭向けの補助について、どの業者へ依頼すればよいかなどの情報が、より分かりやすい形で普及していくことを期待する。(牛越氏)
- ・他の先行地域で苦戦しているところもある中で生坂村の進捗には感心する。今後、小水力発電と PPA がどれだけ進捗していくかが大きな鍵となるので引き続き頑張っていたきたい。(平林課長)
- ・村の事業によって恩恵を受けた人が身近にまだいないことで、実感がわからないという方もいると思う。今整備したインフラは、メリットが分かれば使う人が増え、次のインフラも整備しやすくなる。村として出来る周知は色々あり、事業の意義が浸透していくと次のステップにも進みやすくなる。後半戦に期待したい。(茅野先生)

○地方公共団体実行計画について

- ・計画の期間、温室効果ガスの削減目標、区域施策編及び事務事業編の温室効果ガス排出量の削減目標と脱炭素シナリオ、生坂村地方公共団体実行計画の進捗状況等の公表(案)について説明。
- ・今年度の使用量を調査し、前年との比較が可能か質問があり、令和6年度については、ガス・灯油は推計値となるが、電力は実数値であり分母となる数値を把握済みのため、比較は可能と説明。
- ・事業計画の進捗と評価で先行地域づくり事業のハード面(CO2削減設備等)が計画の中で大きな割合を占めているのでこの内容を多く加えたらどうか意見があった。

○上生坂マイクログリッド工事について

- ・マイクログリッド工事の実施箇所、工事期間、通行規制等について説明。

- ・ 工事進捗と今後の予定について質問があり、地下埋設物（配管、管路）の配管工事が完了次第、電線工事に着手できる状況。年内に配管工事を終え、その後配線工事へ移行する予定。現時点の見通しでは、通線は年度末までかかる可能性が高いと説明。
- ・ マイクログリッドの蓄電池設置と運用開始時期について質問があり、蓄電池の設置は年内11月、12月に搬入・設置が予定されており、設置後マイクログリッドの電線工事が完了次第、順次充電・運用開始になると説明。また、蓄電池は設置後2～3ヶ月間無充電の状態が想定されるが、基本的に性能は大丈夫であると説明。

○V2H（EV充放電器）の活用について

- ・ V2Hスタンドの使用について現在の想定、課題、8月31日（日）の総合防災訓練で実演を行う予定を説明。白馬村では、村内に設置されているEV充放電器の支払い方法として「自己申告課金」制度という、利用者自ら使用分を申告し、簡単に料金を支払う仕組みを導入している。これにより、利用者の意識向上や一体感の醸成が期待され、料金徴収の手間も軽減されると考えられている事例を紹介。
- ・ 防災対応以外の使用案として、EV車を利用した「もりびと」等の買い物支援サービス時の充電使用や電動草刈機のバッテリー充電の案が出された。

○その他

- ・ 令和7年6月から7月における太陽光パネルの設置状況及び予定について説明があった。
- ・ 龍と子 Vol 18の内容について説明。